

噶矢会行政視察報告

参加者 古谷幸男・尾崎隆則・友田秀明

平成 29 年 11 月 1 日～2 日

11 月 1 日 視察先 ポートレース尼崎

視察項目

ポートレース尼崎の運営状況について

11 月 2 日 視察先 兵庫県三木市

視察項目

定住に向けた取り組みについて

11月1日 尼崎市 ポートレース尼崎の運営状況について

尼崎競艇の尼崎市主催レースは年間180日でH27年度は総売り上げが約329億円 入場者数約395千人 H28年度は約339億円、360千人と、売り上げは順調に伸びているが入場者数は減少している、このことから全レース場でも同様のことであるが、場外・電話投票の売り上げが増加していることが推察されるとともに、実際に本場売り場売り上げはH27年度が554千万円に対してH28年度は509千万円と45千万円も減少している。他の売り上げでも専用場外や場間場外委託売り上げも微減であり総売り上げ増は電話投票の好調によるものである、電話投票は高額購入もしやすく煩わしさがないが、一つだけに偏ってしまう危険性も考慮しその対応策も検討しなければならないと思う、本場売り上げ減少の一因として競艇ファンに対するサービスが十分になされているのか、尼崎のファンサービスを実際に視ると、不十分と言わざるをえない。レース場にファンが少ないと選手のパフォーマンスにも影響がでるし、実際選手に話を聞くとその通りだと言ってたし、多数のファンの前だとモチベーションも上がりよりスリリングでエキサイトした好レースにつながり、さらなるポートレースファン獲得になるし、売り上げ増にもなる、現状の売り上げに満足することなく、更なる高みを目指して本場来場者増に傾注すべきである。

11月2日 三木市 定住に向けた取り組みについて

三木市は神戸のベッドタウンとしてS45年頃からニュータウン開発によって急激に人口増加し約30年間で(H9年)ほぼ倍になる4万人増の88,232人とピークを迎えたがその後若者世代の市外への流出や出生数の低下などにより人口は継続的に減少している。一方高齢化率進んでいて、H37年には、人口70,449人、高齢化率36.7%H62年には人口57,624人高齢化率41.4%という推計から、三木市創生計画で出生率の減少の要因の一つに女性の未婚率の上昇が考えられることに注視した。三木市の若者の未婚率は、H2～22年間で男女共増加し、特に30～34歳においては、男性は28.2～51.5%と2倍に女性10.4～40.2%と4倍に、35～39歳では男性が12.9～36.5%と3倍、女性が5.1～25.7%5倍ということから、H13年より取り組んでいた婚活支援事業へ、市を挙げて本格的にのりだした。順追っていくとH13年みきハート・まちおこし実行委員会設立、H20.11.22みきで愛サポートセンター設立、H26.4今回視察で説明して頂いた豊かなくらし部・縁結び課の新設、H28.3三木市創生計画策定、H28.4縁結び課を拡充と推移し、まず縁結び課の職員の名刺(別紙参照)に本気度が表されてえる、主な業務内容は、先ず、「出会い、住居探し、定住まで切れ目ない支援を実施し、三木市のイメージアップと若者の定住促進をめざす」(1)縁結び事業・みきで愛サポートセンターに委託し独身男女の

出会いの場を創出、この事業はどこにでも何人かに入る地域の世話好き ② なおばちゃんやおじちゃんをサポーターという無償ボランティアを市で募り常時 100 人くらいのさぼたーが、それぞれ 10 人前後抱えている未婚者を紹介しあうシステムを市が仲介しているもので H28 年度末でサポーターで 73 組、婚活パーティーで 9 組の成婚させている。成婚による経済効果額として、国民一人当たりの消費額 124 万円を基準に資産すると約 1 億 4384 万円の経済効果があり、離婚しない限り毎年消費は継続され、さらに子供が誕生すればその分が上乗せされる、縁結び課年間経費約 240 万円を考えれば費用対効果でみるとさらすばらしい成果であると言わざるを得ない。また三木市の婚活事業がたの自治体と大きな違いと自信満々に上げているのが、①第 2 の親的存在のサポーターがいる。②ボランティア活動の中でも N O 1 のやりがいがある③単なるマッチングシステムではない（多くの自治体が力を入れているが、結局、結婚できる人だけへのフォローになっている、結婚に悩んでいる人へのフォローをしている。と胸を張って説明する、三木市縁結び課、課長が頼もしくみえた。

視察研修 平成 29 年 11 月 1 日 ポートレース尼崎
尾崎 隆則

所感として、応対が他情では見受けられない応対であった。

貴賓室であったが、こじんまりした小会議室の中で、テレビは 1 台しか設置されておらず、オッズ情報も配信が少なく、舟券の購入が他場と比べ、判断がむずしかった。

対面に設置してある大型スクリーンも他場では例を見受けられない情報だと感じた。（2 連単・3 連単の売り上げ情報が締め切り前でないと出てこない。）

売り上げは向上しているが、接客態度は他場では経験のない応対であった。

二度と行きたくない場に上げられる。と感じた。

視察報告 兵庫県三木市 平成29年11月2日

定住に向けた取組みについて

尾崎隆則

沿革

三木市は戦国時代から金物産地として、重要な役割を果たしていた。

明治以降は、軍需を始めとする需要の変化に呼応して、製品は機械工具を含めて多様化したが、第2次世界大戦後は戦災復興のため大工道具の需要が増大し、金物業は再興され、世界各国へと市場を拡大した。視察に訪れた11月2日（木）は4日～5日に行われる三木市一大イベントである金物まつりの準備でごった返していた。

県内外から18万人の人出で賑わうと聞いた。

手引のこぎりは全国シェアの12、2%を占めている。

また、平成17年には日本オープンが開催されたわが国屈指の名門コース広野ゴルフ場をはじめ25ヶ所のゴルフ場がある。

恵まれた自然条件と肥沃な土地を生かした農業も盛んで、酒造好適米の山田錦の生産は日本一であり、蔵元と直接契約している。

定住促進事業について

定住促進事業（対象者は市内及び転入の方）

新たに市内に住宅を新築または購入する際に課税される新築
軽減期間中の固定資産税と都市計画税の一部を助成すること
で、若者・子育て世帯の転出を抑制し、人口減少及び少子高齢
化の抑制を図ることを目的としている。

1、 対象となる世帯

- ア 平成 25 年 1 月 2 日から平成 30 年 1 月 1 日までに住宅を新築
または購入した世帯であること。
- イ 最初に固定資産税等が課される年度の初日の属する年の 1 月
1 日において配偶者を有し、夫婦のいずれかが 40 歳未満であ
ること。
- ウ 市税の滞納が無いこと。

2、 対象となる家屋と助成期間

- ア 一般住宅の場合は、新築後 3 年間
- イ 兵庫県の認定を受けた長期優良住宅は、新築後 5 年間
- ウ 延床面積 50 m²以上 280 m²までの家屋が対象。うち
120 m²まで助成となる。(土地は対象外)

3、 申請について

申請は対象年度ごとに必要となり、初年度の申請期間は対象年度の 1 月 1 日から 3 月 31 日までとなる。

結婚新生活支援事業（対象は市内及び転入の方）

若者の婚姻に伴う新生活を支援することで、定住及び市内への転入を促進し、人口減少及び少子高齢化の抑制を図る目的。

（1） 対象となる世帯

- ア 婚姻後 2 年を経過しない夫婦のうち、双方が 40 歳未満で、かつ総所得金額等が 300 万円未満の世帯であること（市税について滞納していないこと）
- イ 補助金の申請をした翌年度から 2 年以上本市に居住すること。

（2） 対象となる費用

- ア 住居費 市内に住宅を取得する費用又は市内の住宅物件（公営住宅を除く）の賃借料（月額賃料・敷金・礼金・共益費等）。
ただし、住宅手当は除く。

- イ 引越し費用 市内の住宅物件（公営住宅を除く）への引越し費用

（3） 補助金の額

住居費及び引越し費用の合計額（上限 18 万円）

（4）申請について

補助要件を満たしている方は、三木市結婚新生活支援事業補助金交付申請書に加え必要に応じて、次の書類を提出することになる。

- ア 婚姻届受理証明書その他婚姻を証する書類
 - イ 所得証明書
 - ウ 見積書その他補助対象経費の内容を確認できる書類
 - エ 貸与型奨学金の返還額が分かる書類（貸与型奨学金を返済している場合に限る）
 - オ 住宅手当の支給を証する書類（勤務先から住宅手当の支給を受けている場合に限る）
- その他市長が必要と認める書類を提出。

若者・子育て世帯住宅取得応援事業（対象は転入の方）

三木市に移住する若年世帯が、住宅を新築又は新築物件を購入する場合に、その費用の一部を補助することにより、市外からの移住を促進し、人口減少及び少子高齢化の抑制を目的とするため。

(1) 対象者

- ア 補助金の申請をする日において、対象者又は配偶者が 40 歳未満であること。
- イ 補助金の申請をする日において、市外に住所を有すること。
- ウ 市税の滞納が無いこと。

(2) 対象となる住宅

平成 29 年 4 月 1 日以降に市内に住居として新築又は購入した住宅。
建築後 2 年以上経過していない未入居の新築住宅に限る。

(3) 補助金の額

住宅取得に要した経費（上限 25 万円）

(4) 申請について

補助要件を満たしている方は、三木市若者・子育て世帯住宅取得応援補助金交付申請書に次の書類を添えて提出。

ア 事業計画書

イ 見積書の写し及び設計図面

ウ 確認済証の写し

若者・子育て世帯住宅リフォーム支援事業

三木市に移住する若者世帯が、住宅の改修工事を市内施工業者により実施した場合、その経費の一部を補助することにより、市外からの移住を促進し、人口減少及び少子高齢化の抑制を図る目的。

(1) 対象者

- ア 補助金の申請をする日において、対象者又は配偶者が40歳未満であること。
- イ 補助金の申請をする日において、市外に住所を有すること。
- ウ 市税の滞納が無いこと。

(2) 対象となる住宅

平成29年4月1日以降に市内施工業者による改修工事を行った住宅。

(3) 補助金の額

工事経費（消費税を含む）が10万円以上の場合（10万円）

(4) 申請について

- ア 事業計画書
- イ 見積書の写し及び設計図面

- ウ 工事施工予定箇所の写真
- エ 住宅の所有者を確認できる書類
- オ 共有者がいる場合は、三木市若者・子育て世帯住宅
リフォーム支援事業補助金共有者同意書

所感

三木市の人口は、7万8千人・面積は176Km²とこじんまりとした市ではあるが、事業の取り組み方が大変優れている。
定住促進対策として、平成26年4月に縁結び課という部署を設置し、市民から仲人の世話人を募集し、平成28年4月までに43組のカップルを誕生させている。

周南市では、企業や商工会などへの丸投げとしか考えられないような施策で進歩が見受けられない。

職員一同が横の連絡を蜜にして、取り組めば市民に明るい兆しが生まれてくると思う。

競馬観察報告書

古谷章男

ホーリーステークス尾崎

11月1日

競工況は H27、H28 は PG1 SG の
レースがあり H28 後 84万全と 339億
9千8全となり H29 年算は
253億 347百万円全としている。
本場での売上は減少化傾向とされる。
電話投票は現時並で現状維持かと
思われるが衆觀視にてきり H28 時には
ないかと思う。専用場外も現状維持を
保つているが今後 H29 時にはやはり衆觀
できみか H29 時と思う。

競工向への転換は少し厳しいと思
われる。

私達がこれまでの部屋ではオラスを
含めて情報提供が十分果たされていない
施設と見ており、全体的に
ファンのためにアーバスを向こさせ
群衆的要素は少々欠けていると
思われるところを挙げたい。

今一度、何故競艇を運営しているのか?
西脇議長は原点に立ち返っては
どうかうかとさえ思える。

本日は優勝率が2割未満であり最後に
ファンの前でイラタバーが行われ
多くのファンが拍手にて祝って以て、
ファンあての競艇券の原点も
守られて嬉しい限り。

元崎競艇の特徴についてみよう。
それぞれの競艇場の特徴を特徴
としてそれはそれでよいとは思うが
一般会計等に繰入れにてこゝり
価値感が高まっていくか
私達が徳山競艇にはどんな特徴
や特徴があるのかと尋ねさせられる。

いかしこまで多くの繰入れがあるにつけ
市民以後立っている事も事実である。
その危険度は甚はるしいものもあると
云ふ意見をもつてゐし。今後も競艇の
状況は注視していく。

講矢会 視察報告 11月2日

三木市 定住に向けて取り組みについて

古谷 章男

大阪 神戸へのアクセスは意外と近い距離感であると言われるが、そこには少々離れていると感じられる。むしろそれが農村エリアを感じさせるまち(市)である。三木市の歴史は古く現在までその歴史は脈々と受け継がれている。それは金物業であり三木市の一大イベントの金物まつりは市あげてのイベントである。

視察の日も4~5日の金物まつりの準備であります。市役所前付近の公園広場はイベント会場に準備が整い県内外から18万人かどるとされるところで、さてどうして三木市は19年に88,232人と人口のピークをむかえたが、その後は市外への流出出生数の低下により人口減少は全儀なじめの段階といふ。高齢化率は達成41.4%と高い。こうした状況の中で、1. 定住促進事業、2. 結婚新生活支援事業、3. 若者子育て世帯住宅取得応援事業

4. 若者子弟で世帯住宅リフォーム支援事業
に取り組み中でも H26.4月に緑崎ひび果
の新設は市にとって大きな成果といっている。
當時100人全員のサポート者が活動しH28年度
では毎月ハーティで9組を成立させている。
①オエ親的サポート ②ボラティア活動の
やりかいN.O.1 ③単なるマッチングシステムではなく
など大いに市民と一緒にして取り組みを
積極的かつ自信をもって進めている。
こうして取り組みは市としても大きな
経済効果をもつていて、といえる。
我市の周ニヤン市への税金投入を差し引くと
歴史伝統文化、地域に根づいた取り組み
はほこれるまちとして連帶感が生まれる。
久々摩のまちづくりはこうあるべきでは
ないかと確信に満ちてこの力を感じ取
ています。